

陳情調書

(件 名) スポーツ・コンベンションセンター整備に向けた陳情書

(陳情の趣旨)

鹿児島県総合体育センター体育館（県体育館）及び県総合体育センター武道館（県武道館）は、施設の老朽化が著しく進んでおり、県体育館は競技フロアも手狭であることから、県屋内スポーツ競技団体として長年にわたり県当局・県議会・県民の方々にこれまで早期建設を求めてきました。

令和6年度には、事業者が選定される予定とされていましたが、入札が不調となり、私ども屋内スポーツ競技団体としても誠に残念な思いであります。

その後、スポーツ・コンベンションセンターの建設を進めることについては、県当局で様々な検討を行っていると考えますが、私ども県屋内スポーツ競技団体としては、基本構想で整理した競技面数・フロア面積の確保、アリーナに加え武道場と弓道場の一体的な整備を強く要望いたします。

競技面数・フロア面積の確保の必要性としては、県体育館はメインアリーナでバスケットボールコート2面の規模しか確保できず、現在、県大会においても複数会場で開催せざるを得ない状況です。

また、会場も複数市町村にわたることから、選手はもとより、保護者、引率者、審判などの大会関係者の負担が大きい現状があり、学校の体育館を会場とせざるを得ない場合は、授業の組み替え、他部活動への影響など生徒や学校関係者の負担にもつながっています。

さらに、県内の体育館の規模では、大会の進行上、長期の開催や夜間までの開催を行っている状況であり、特に団体戦・個人戦などもある卓球やバドミントンでは、大会運営に4～5日を要したり、朝8時頃から18時を超えたりとしている現状です。

これらは、特に離島からの参加者には、体力的な負担に加え、本土内での交通費や宿泊費などの経済的な負担増にもつながっています。

武道場・弓道場の一体整備の必要性としては、現在の県武道館は、今年度外壁が落下するなど、老朽化が著しく、利用者の安全面を考慮すると早期に整備していただきたいと考えています。

また、武道館は狭隘であり、柔道競技では正式な試合場を確保できないといった課題があります。

さらに、競技団体としても交通利便性の良い鹿児島市内での大会開催が望ましいと考えますが、同市内に、畳などが備えられている施設が限られていることから、鹿児島市外の会場確保しかできず、会場準備など大会参加者に大きな負担が生じています。

これらの課題解決のためにも、下記事項を陳情します。

記

- 県体育館・武道場の老朽化が著しいことから、メインアリーナやサブアリーナ、武道場、弓道場を一体的に備えた施設として、スポーツ・コンベンションセンターの着実な整備を陳情します。

- また、選手、保護者、引率者、審判などの大会関係者の多大な負担を解消するためにも、アリーナ、武道場等の競技面数については、県当局の基本構想に基づき建設されることを陳情します。